

令和4年度第13回士別市教育委員会会議録

1. 日時 令和5年1月30日(月)午後2時04分～午後4時00分
2. 会場 教育委員会 会議室
3. 出席者 教育長 中 峰 寿 彰 生涯学習部長 三 上 正 洋
職務代理者 馬 場 千 晶 学校教育課長 須 藤 友 章
委員 加 藤 洋 之 合宿の里・スポーツ推進課長
委員 山 田 敦 久 坂 本 英 樹
社会教育課長 武 山 鉄 也
学校給食センター所長 古 川 優
学校給食センター主任技師
湊 谷 実 咲
- 欠席 多 田 千 鶴 委員

4. 議 件 (発言者、議事要旨及び議決事項)

1 教育長挨拶

今朝は、この冬一番の寒さとなり、7時の気温が-25.8℃と発表されたが、6時42分の時点では-26.9℃であった。さらに、温根別では-31℃だったとの話もあり、北海道らしい気温になった。

新型コロナウイルスに関しては、国が5月8日から感染症法上の位置づけを2類から5類に移行するとの方向性を示している。11月には、これまでの給食に関する取扱いについて、「黙食を求めている」との見解が示されたが、現場や子どもたちの困惑を避けるため、校長会との協議のもと、本市では当面これまでどおりの対応を継続することとした。本日開催された庁議では内閣府からの情報が周知され、2月上旬に市の対策本部会議を開催することとなったが、現段階では、どのように扱うべきか悩ましいとの意見が出されていた。卒業式などの取扱いについても校長会との協議も踏まえて対策本部会議で確認していきたい。先の国会審議でも5月に先立ち、「3月の卒業式からマスクなしでできないのか」との代表質問も出されていた。コロナ禍の3年間、ずっとマスクを着けていたため、お互いの顔がわからないのではないかとの声もある。翔雲高校においてもコロナ禍前に準じた形で卒業式を実施することとなり、東校も同様に調整している。

雪まつりなどの行事についても、子どもたちの体験や思い出につながる大切なものと考えている。できる対策を講じたうえで参加してもらいたい。

本日は順序を変更し、初めに「学校給食アンケート調査結果報告」から説明する。

本日もよろしく願います。

◇学校給食アンケート調査結果報告

○湊谷主任技師

別紙資料のとおりアンケート調査を実施した。絵本などに出てくる料理を献立に取り入れる「図書給食」を行うなど、子どもたちが、苦手な食べ物を減らし、給食を好きになってくれるよう努力している。

魚のくさみを取ったり、骨の少ないものを選ぶなどして成長期に必要な栄養を摂取しているほか、栄養教諭から声かけをし、食べてもらうよう働きかけている。今後も食に興味をもってもらえるよう「給食だより」について充実を図っていく。

○中峰教育長

アンケート結果では、全般的に良い評価を得ている。

○山田委員

好評であると捉えてよいと思う。

○中峰教育長

残食が出る理由の一つは給食時間に余裕がないことでもある。低学年が早い時間で下校してしまうこともあって、給食後に教室の掃除を実施しているという状況もある。ふるさと給食で学校に行った際も、食べるのが遅い児童は、時間内に食べきれない様子もみられた。一方で、おかわりしている子どももいた。麺とパンの組み合わせは、相変わらず不評のようだが、必要な栄養量確保のための対応となっている。

○湊谷主任技師

体型が気になると残すようになるケースもある。食材の摂取基準を満たすため、麺の量を増やすなどの工夫をしているものの、容器等の関係もあり、限界がある。

○加藤委員

思春期の子は周囲の環境に流されてしまうことも多い。子どもたちも、食に関して裕福になりすぎているのではないかと。特に、家ではあまり魚を食べていないようだ。

○中峰教育長

家庭の状況で嗜好も変化する。魚の骨がのどに刺さったという事案があり、献立でも注意を促す記載を入れたが、今度は逆に骨のことを気にする児童も出てきて、痛し痒しの状況もある。納入元では、魚の身が崩れないように、あえて骨をつけたままにしている例もある。

○山田委員

自分が子どもだった頃は、味よりも量が重要だった気がする。食育についても要素は様々である。

○馬場職務代理者

給食を残す理由として、小学生が「太りたくない」を選んでいるいるが、給食はカロリー計算されていることが理解されていないのではないかと。

○中峰教育長

思い込みの部分があるのかもしれない。栄養教諭から指導してもらうようにしていきたい。

○加藤委員

嫌いなメニューに「さかなの梅煮」があるが、最近は家庭でも梅を食べなくなっているのではないかと。おにぎりなどでも、梅は購入されないようだ。味覚は大人になるにつれ変化していくが、色々なものを食べることも大事。

○中峰教育長

ふるさと給食も継続して実施している。一方、参観日などに給食の試食会を実施している学校もあるなか、保護者からの評価も上々である。

○加藤委員

保護者の立場からは、給食はありがたいと感じている。

○中峰教育長

本日まで「全国学校給食週間」である。引き続き、安全・安心な給食の提供に尽力していく。

○古川所長

学校給食の献立表をスーパーアークスで掲示してもらっている。

○馬場職務代理者

夕食の献立などと重複が避けられる良い取組である。

○中峰教育長

子どもがいない家庭でも、給食の献立を参考に家の食事を用意しているとの話も聞いている。

1 議事について

○中峰教育長 進行

議案第 30 号 「土別市奨学金貸与条例の一部を改正する条例」および、議案第 31 号 「土別市奨学金貸与条例施行規則の一部を改正する規則」について説明を求める。

○須藤課長

本市の奨学金の1月あたりの貸付額は、大学生又は専門課程の専修学校生が25,000円、高等学校生又は高等課程の専修学校生は10,000円であるが、条例を改正し、令和5年度から貸付上限額をそれぞれ5,000円ずつ引上げることとする。さらに、これまで貸付の対象とされていなかった大学院生について、大学生又は専門課程の専修学校生と同じ基準で適用する。なお、これまでは1月あたりの貸付額を定額で貸し付けていたが、今後は今回引き上げた金額までの範囲内で貸し付ける。例えば大学生又は専門課程の専修学校、若しくは大学院生の場合、上限額である30,000円から25,000円の間で希望する額を貸し付けることとし、その際は1,000円単位で金額を選択するものとする。また、市では若者の就業やUIJターンを促進するため、新たに奨学金返還支援事業を開始する。本市の奨学金のほか、日本学生支援機構の奨学金が対象となっており、企画課が窓口である。

○中峰教育長

まだ予算内示の段階であることは、ご承知おきいただきたい。

○加藤委員

土別に住んでもらうための方策として、返還支援はよい取組だと思う。大変な思いをして返還し続けている例もあると聞いている。少しでも経済的に楽になればいいのではないかと。

○馬場職務代理者

大学生などの申請者が希望した場合、1月28,000円を貸付けることが可能ということか。

○須藤課長

そのとおり。

○山田委員

複数の奨学金を借りた場合は返還のときになってに困ることがある。

○中峰教育長

実際、返還する時は相当な負担になる。本市の場合は、卒業後一年の猶予期間を経て、二年目から返還が始まる。その際に月々どれくらい返還するか協議もを行っている。

○馬場職務代理者

大学院生になると、別に収入を得ながら通っている場合もあるが、奨学金の対象を拡大することはよ

いと思う。

○中峰教育長

利用者のニーズに応えるため、たとえば大学生の場合は20,000円から30,000円の間で貸付額を選択してもらいたいと考えている。

○中峰教育長

議案第32号「士別市スポーツ施設条例の一部を改正する条例」および、議案第33号「士別市スポーツ施設条例施行規則の一部を改正する規則」について説明を求める。

○坂本課長

スポーツ施設の利用実態に則した管理運営を図るため条例を改正するものである。朝日テニスコートは、他の種目やトレーニングなど多目的に活用するため、用途変更し改称する。また、近年の利用実績が極めて少ない剣淵川運動広場と朝日運動広場は用途廃止するものである。さらに、現在、上流側と下流側に2面設置している天塩川ソフトボール場については、下流側を廃止し、1面のみとする。

○山田委員

朝日テニスコートを利用している人の実態はどうなっているか。また、備品などはどうなるのか。

○坂本課長

無料の施設であり、管理人もいないため、一般の方がレクリエーションなどで使用しているかは把握できないが、協会など利用していると思われる団体には用途変更する旨を説明し、理解を得ている。用途廃止する剣淵川運動広場は、河川を占有しているため、ベンチやネットなどは撤去し現状復旧しなければならない。

○山田委員

テニスコートにはネットの支柱やローラーなども置いてあったように思うので、対応が必要。

○中峰教育長

議案第34号「士別市プール条例施行規則の一部を改正する規則」について説明を求める。

○坂本課長

北海道から「障がい理由とする不当な差別的扱いに該当する」条例、規則等の確認依頼があり、本規則が該当していたもの。

○中峰教育長

他の条例、規則等に差別的な表現は残っていなかったとのことである。

○中峰教育長

議案第35号「士別市特殊索道運転取扱に関する規程の一部を改正する規程」および、議案第36号「士別市特殊索道職員職制及びサービスに関する規程の一部を改正する規程」について説明を求める。

○坂本課長

いずれの規程についても誤字や脱字が見つかったため訂正するものである。なお、索道に関しては近々運輸監査が実施される予定である。

○山田委員

「取り扱い」との表記は間違いなのか。

○中峰教育長

間違いではないが、「取扱い」が基本になると考えられる。文化庁は公用文のガイドラインを示しているが、士別市として決めているものもある。たとえば、国や道の文書では「子供」や「障害」と表記

されているが、本市では「子ども」、「障がい」と記載することとしている。

○中峰教育長

議案第 37 号 「令和 4 年度土別市教育委員会補正予算」について説明を求める。

○坂本課長

総合体育館の暖房については、朝 5 時からタイマーで燃焼するようセットしているが、屋根雪による事故を防ぐ目的で、試行的に 24 時間暖房するため、燃料費を補正するものである。屋根の上に積もった雪が凍り付いて一気に落下することがあるため、少しでも屋根の雪を融かすための方策として行うこととしたが、この取扱いは、積雪や外気温の状況を踏まえて、必要に応じて実施する。また、日向スキー場については第 2 リフト沿線の危険木を伐採する必要があるが、積雪のある冬季間に重機を入れることにより安価に実施できることから、債務負担行為をとり、4 月に入ってすぐに伐採できるよう対応する。

○中峰教育長

総合体育館は建設当時からみても、暖房性能が低下している状況にある。この間、屋根の塗装を行うとともに、暖房設備も変更したが、利用者から「寒い」との声が聞かれる。屋根の頂点辺りにはかなり雪が積もっている状況である。

○加藤委員

体育館の改修には足場代がかなりのウェイトを占めることになる。

○中峰教育長

もっと効率的に屋根に熱を伝える方法があるとよいのだが。

○馬場職務代理者

スキー場の危険木を伐採した後はどう処理するのか。

○坂本課長

安全性に配慮しつつ、倒したまま置いておく想定である。売却することも可能かもしれないが、運搬経費を考えると難しい。

2 その他

◇当面する今後の日程について

三上部長説明。

○山田委員

新型コロナウイルスの対応に関して、マスク着用や飲食を伴う会合の解禁についての考え方はどうなっているのか。

○中峰教育長

2 月 7 日に、市の対策本部会議が開催される予定である。飲食を伴う会合については、状況に応じて開催されている。市では、課の全員が一斉に出席するような会食は行わないようにしている。新年交礼会なども飲食はなかった。一方で祝賀会などを行っている団体も出始めている。

○山田委員

送別会などが開催できる状況になればいいと思う。

○中峰教育長

今年度で定年を迎える校長もいるが、送別会も開催できない状況。各学校でも全体的な会食は実施し

ていない。一方で、PTA などでは、謝恩会なども実施したいとの意向も聞かれているが、現状では難しいと考えている。

○山田委員

徐々に変わっていくとは思いますが、どこが口火を切るかは、なかなか見通しが見つからない。

午後4時00分 会議の終了を宣した。

この会議は、会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため署名する。

署名者 中 峰 寿 彰

会議録調整者 須 藤 友 章